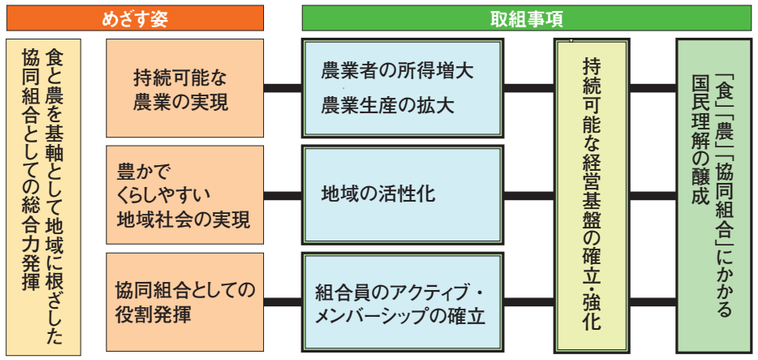
第28回JA全国大会議案（2019～2021年度）

JAグループは、右図のめざす姿の実現にむけて、引き続き3つの基本目標「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」とあわせて、協同組合の原点である「アクティブ・メンバーシップの確立」などに取り組むこととしています。
JAを拠り所として活動する私たちJA女性組織メンバーは、JAが地域の農業とくらしになくてはならない存在となるようJAとの対話や活動を通じてJAの自己改革の後押しをしましょう。

注:第28回JA全国大会議案(素案)より抜粋・修正



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

JA女性組織の活動は、SDGs（エスディージーズ）そのもの！　私たちの活動は、世界の課題解決につながっています

SDGsとは、2015年国連で採択された持続可能な社会をつくるための17の目標です。社会の問題を解決し、よりよい未来を迎えるために、2030年に向けて世界が合意しました。
そこには、世界のみんなが力を合わせて、地球上のさまざまないのちのつながりや、その恵みを大切にして、誰もが豊かさを感じられる平和な世界をつくろうという、ビジョンが掲げられており、それぞれの目標は相互に関連しています。
JA女性組織の活動はSDGsそのものです。「誰一人取り残さない」という思いで、地域のさまざまな問題を力を合わせて、取り組んでいきましょう。

国連で家族農業年10年と決められました

2017年末に開かれた国連総会では、2019年から2028年までの10年間を「家族農業の10年」と決定しました。家族農業は世界の食料生産の約8割を担っており、世界中の食卓を守る重要な役割となっています。SDGsで掲げられた貧困や飢餓の撲滅などの目標達成に向かう上で、家族農業という持続性のある農業形態は特に注目されています。

協同組合はユネスコで世界遺産に登録されています

2016年11月協同組合を無形文化遺産として登録しました。登録理由は「共通の利益と価値を通じてコミュニティづくりを行うことができる組織であり、雇用の創出や高齢者支援から都市の活性化や再生可能エネルギープロジェクトまで、さまざまな社会的な問題への創意工夫あふれる解決策を編み出している」というものです。日本でも協同組合の活動をもっと広めていきましょう。

JA女性組織の活動に期待します！

JAグループを含む協同組合はSDGsの重要な担い手として位置づけられていると同時に、SDGsの推進に男女平等と女性活躍の視点は欠かせません。世界の課題を自分事として見据えながら、地域での活動を一緒に広げていきましょう！

国際連合広報センター所長
根本かおる

平成31年1月作成

JA女性組織3カ年計画 2019年度～2021年度

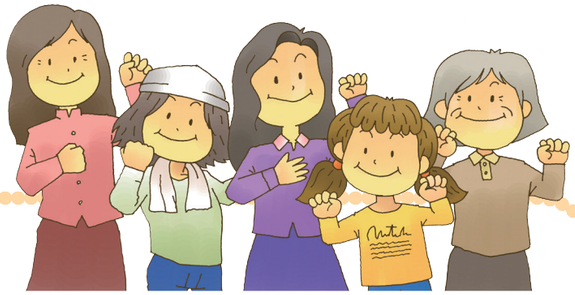
JA女性 地域で輝け 50万パワー★

JA女性組織メンバーは、JA女性組織綱領をもとにJAとともに食と農を基軸に活動しています。綱領には、「住みよい地域社会づくりを行います」と明記してあるとおり、私たちは活動を通じて、地域の課題を解決し次の世代に豊かなくらしをつなげていくことが必要です。
今、地域では、少子高齢化や単身世帯の増加、地域経済の低迷などにより、生活拠点が減少し、人と人とのつながりが希薄になってきている一方で、地域社会の活性化や防災のために、あらためて協同の大切さが見直されています。
国連は、持続可能な社会を築く目標としてSDGs（エスディージーズ）を掲げていますが、この内容は、私たちがこれまで取り組んできた多くの活動と関連しています。国際交渉による輸入食品の増加が懸念される中、安全安心な食を守り、食料自給率の向上にむけた活動など、私たちの活動は、持続可能な社会を築くことにつながっています。
JA女性組織メンバーの一人ひとりが、相互に助けあい、仲間とともに支え合う「協同の力」を発揮して、地域で何ができるかを考え、協力しあいながら、自らの手で創造的に地域を輝かせ、そして自らも輝いていきましょう。

※「50万パワー」は、約54万人（30年12月時点）のJA女性組織メンバーが5つの具体的活動において、力（パワー）を発揮し、地域を輝かせてもらいたいとの思いを込めたものです。

JA全国女性組織協議会

地域で輝くための5つの 具体的活動



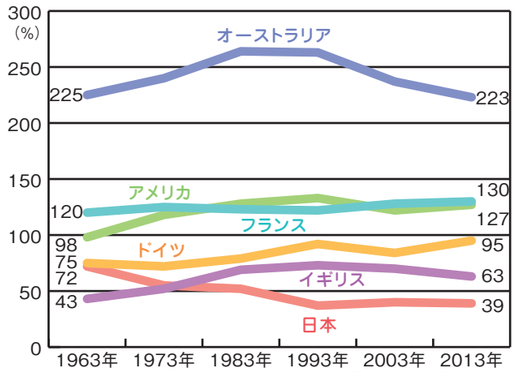
1 食を守る ★

- 食料自給率の向上に向けた運動を展開します。
- 安全安心な食について学習し、情報発信します。
- 地産地消の推進、伝統食の継承をすすめます。
- 食品ロス削減に取り組みます。

日本の食品ロスと世界の食糧援助量

日本の食品ロス **646万トン**（2014年） ＞ 世界の食糧援助量 **320万トン**（2014年）

日本と主要国の食料自給率の推移



出典:『食料需給表』(農林水産省)
※日本の2017年の食料自給率は38%

2 農業を支える ★

- 農業を取り巻く情勢について学習、情報を発信します。
- 農業の理解促進のために食農教育に取り組みます。
- 家族農業に対する理解を深めます。

農業就業人口の減少と女性の割合

(単位:万人、%)

	2000	2005	2010	2015	2018
農業就業人口	389	335	261	209	175
女性の割合	55.7	53.3	49.8	48.1	45.7

出典:『農業センサス』『農業構造動態調査』(農林水産省)

農業経営体に占める家族経営体の割合

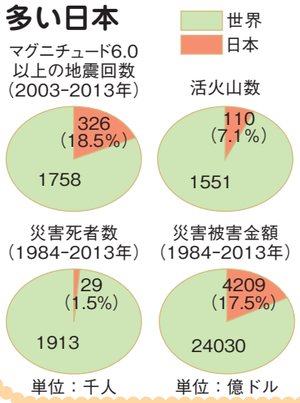
日本	EU	米国
97.6%（2015年）	96.2%（2013年）	98.7%（2015年）

出典:農林水産省ホームページ

3 地域を担う ★

- メンバーによる地域の居場所づくり、行事の維持などを通じて地域を支えます。
- 防災に対する意識を高め万一の備えを万全にします。
- 地域における協同組合間の連携、他団体との交流を通じて、活動の輪を広げます。

世界でも災害が多い日本



地域における社会、生活の拠点数

JA店舗施設	16,419（7,857※1） 2018年4月
郵便局数	24,011※2 2018年11月
小学校数	20,095 2017年3月
公民館数	14,171 2015年10月

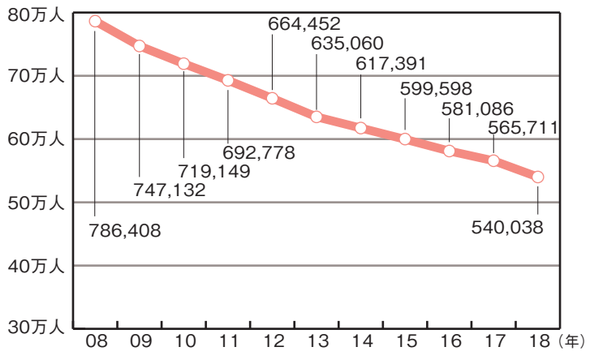
出典:『平成30年度全JA調査調査結果』(JA全中)「日本郵政ホームページ掲載資料」『平成30年版文部科学統計要覧』(文部科学省)『平成27年度社会教育調査』(文部科学省)

※1信用事業を取り扱っている店舗の合計数
※2簡易郵便局含む

4 仲間をつくる ★

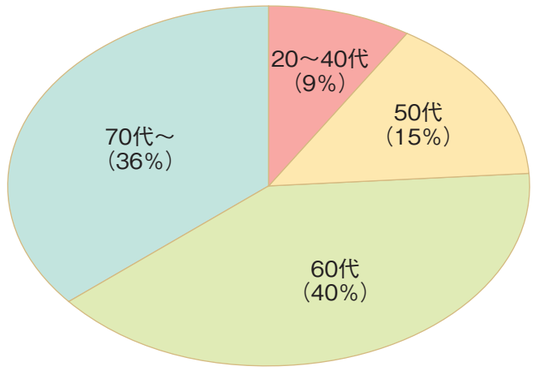
- 次代のリーダーを育成し、全組織でフレミズ組織を設置します。
- 幅広いメンバーの拡充をはかり世代間交流をすすめます。
- JA女性組織の活動を充実させ、情報発信します。

JA女性組織メンバー数の推移



出典:JA全国女性組織協議会調べ

JA女性組織メンバーの年齢構成

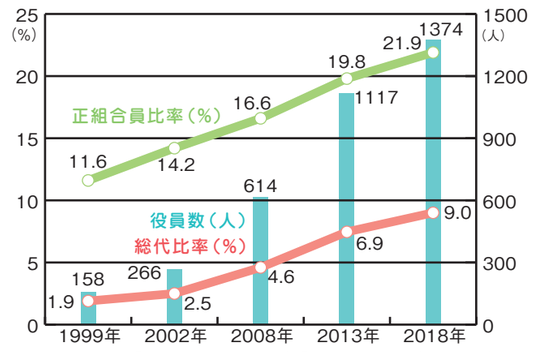


『平成30年度 全JA調査調査結果』(JA全中)

5 JA運営に参画する ★

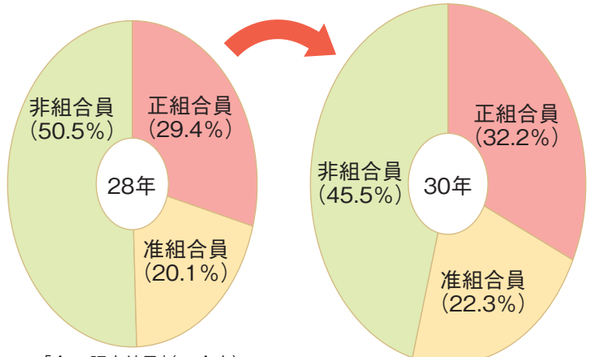
- JA役職員との対話(積極的な交流、情報交換)を強化します。
- 支店運営委員会など各種委員会への参画をすすめます。
- JA運営への女性参画目標である「正組合員30%以上、総代15%以上、理事等15%以上」を目指します。
- JA女性組織メンバーの全員が正･准組合員となることを目指します。

JA運営への女性参画の状況



出典:「JA女性役員等調査」･「全JA調査結果」(JA全中)

JA女性組織の組合員加入状況



「全JA調査結果」(JA全中)

SDGs(詳細は4頁参照)の目標は、具体的活動ごとに主に関連するものを大きく、関連するものを小さく貼付しました。